



令和5年11月5日（日）、福平中学校にて、グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。第18回目となる今大会は雲一つない秋晴れの下、全17チーム、総勢100名という多くの出場者が熱戦を繰り広げました。

- 「団体の部」優勝：影原B 準優勝：東南光山 3位：草野B
「個人の部」優勝：八木 洋子さん（東南光山）準優勝：谷口 夏江さん（光山）
3位：月野 幸子さん（東南光山）
「高齢者特別賞」藤安 治さん（太陽ヶ丘） 入佐 リツ子さん（五位野）

2023.11.19福平校区防火防災訓練

令和5年11月19日（日）、福平中学校にて、校区防火防災訓練が行われました。119番通報訓練、救命講習、消火訓練などが行われ、親子で大勢の方々が参加されました。中学校屋上の要救助者を高所活動車で救出する訓練（左写真）や福平分遣隊による消火活動のデモンストレーションが行われました。



2023.12.1鹿児島市社会福祉協議会福祉功労者表彰



令和5年12月1日（金）、鹿児島市社会福祉協議会より社会福祉の増進に貢献され、その功績が顕著な方を福祉功労者として表彰されました。受賞おめでとうございます。

- ・迫 恵喜さん（芝野）
- ・別府 憲夫さん（太陽ヶ丘）
- ・中村 純也さん（五位野）

ふくひらお元気さん通信 Vol.1

園田 典子さん（91）五位野

鹿児島市高齢者クラブ連合会主催の「元気高齢者の集い&福祉演芸大会」にて園田典子さんが、元気高齢者として鹿児島市南部地区代表で表彰されました。園田さんは高齢者施設の副園長として、現役で勤務されています。現場スタッフと共に汗を流し、地域福祉に貢献されている福平校区のお元気さんです！



ふくひら

共に助け合い 支え合う 住みよいまち ふくひら



福平校区コミュニティ協議会主催
2023.11 福平校区大運動会

発行 福平校区社会福祉協議会
発行責任者 竹ノ内 幸雄
編集者 中村 純也
連絡先 090-2393-1079

目次

- ・校歌は「郷土歌」～福平小学校校歌～
- ・グラウンド・ゴルフ大会
- ・校区防火防災訓練
- ・令和5年度鹿児島市社会福祉協議会福祉功労者表彰
- ・ふくひらお元気さん通信 Vol.1

校歌は「郷土歌」

校歌が歌う 「地域」と「時代」

福平小学校校歌 (昭和二十七年制定)

作詞 坂口 利雄

作曲 武田 恵喜秀

- 一、朝にそびえる桜島
今日も仰いでなごやかに
光はよんでほほえむよ
明るいわれらの福平校
- 二、青い潮路のそよ風に
かもめはばたく七つ島
希望は遠くかがやくよ
元気なわれらの福平校
- 三、星がまたたく清泉寺
歴史も古く水清く
学びの道を指さすよ
励むわれらの福平校



太陽ヶ丘・五位野から見る早朝の桜島 (2024.1撮影)

令和6年元旦、石川県能登半島地震が発生し多くの人命や財産が失われました。被災地では今なお、多くの方々が避難生活を余儀なくされています。今まさに福祉の力が必要とされています。今回、福平校区社会福祉協議会「広報部」では校歌をテーマとして取り上げることとしました。校歌の中には山や自然などその地域の地域語が用いられ、「郷土愛」と「郷土歌」としての役割も期待されてきました。校歌は、それが制定された時代を映す鏡であり、近年では市街化・宅地化等が進み見慣れた風景が変化し、地域環境を固有な名で歌わず、抽象的に表現する校歌が増えてきています。福平校区でも変わる時代と今も変わらぬ風景があります。校歌は福平校区の情景を誰もが思い浮かべ、イメージを共有し、郷土への関心をより高める役割の一端を担っています。学校は教育の場であると共に人づくりの場であり、「心づくりの場」でもあると思います。公的な福祉分野は飛躍的な発展を遂げてきましたが、制度の狭間にある多様な生活課題の増加、地域における繋がり・支え合いの脆弱化等が進むこんな時代だからこそ、今一度ともに支え合う豊かな地域社会の実現に向けて福祉の心づくりが必要だと感じます。地域文化の中心は学校であり、その原点を歌っているのが校歌です。郷土を愛し、郷土を育てることができる人に育て欲しいという願いが込められた校歌はまさに地域福祉の原点とも言えるのではないでしょうか。福平校区社会福祉協議会の目的は「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」です。そんな福平校区を創り、守り、育て、そして私たちの子や孫に継承し、より良い地域を共に創っていきたくて思っています。校歌は地域の心であり「郷土歌」です。校歌を口ずさむだけで、当時の思い出や愛する郷土の景色やにおいで思い出され、心の活力となり、それが福祉の力(生きる力)になることを願っています。

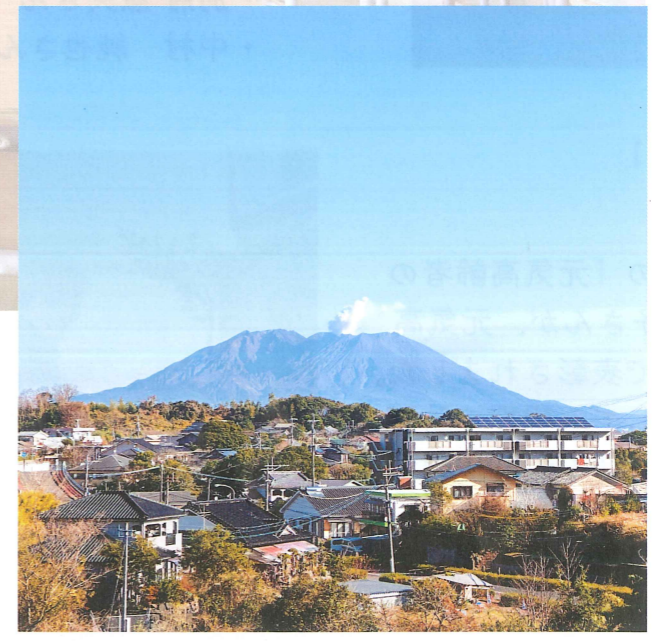
QRコードをスマートフォンから！福平小学校HPから校歌が聴けます♪



桜島 七ツ島 清泉寺

これら我々の財産は先人の魂に触れ、希望と勇氣(福祉)を与えてくれます

鹿兒島のシンボル桜島は市内の様々な場所から眺めることができ、その場所によって見え方も様々です。福平という郷土から眺める桜島、頂から見る噴煙は常に我々の心にあり、明日の活力の源ともいえる存在です。



薩摩の歌人の歌にも詠まれた大小七つの島が、「七ツ島」という地名の由来です。今では工業団地として発展していますが、昔は風光明媚な海岸として知られ、春は潮干狩、夏は海水浴で賑わっていました。唯一残された父島には島の頂上につながる階段があります。頂上には「縄文の聖杯」があり、校区民との友情を温め、伝統、文化を育む青少年の健全育成への願いが込められています。



清泉寺は慈眼寺と同じく、百済の僧、日羅上人が開いたといわれる寺です。明治二年に寺は壊されましたが、境内に磨崖仏をはじめ、再興上人覚和尚の墓や五輪塔群、島津久章の墓などがあります。崖の下からは清水が湧き、尽きることはありません。動画もご覧下さい。



YouTube 動画